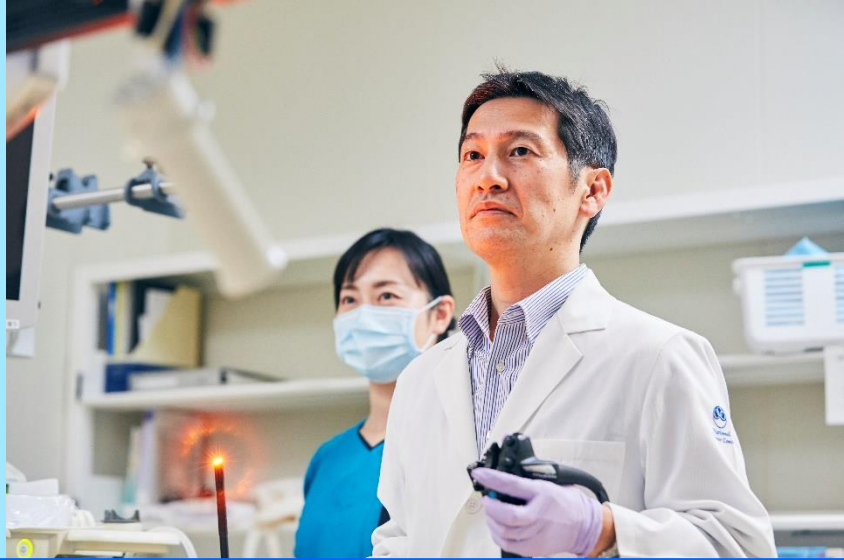


# N E X T

## 医療機器開発センター

### 寄付報告書 2021年度

ご寄付いただきありがとうございます。  
2021年度NEXT寄付収支をご報告いたします。



## NEXT 1年間の活動成果と今後

### NEXT医療機器開発シンポジウムとがん新薬開発合同シンポジウムを合同開催

「進化し、変革し続ける開発環境～次のGame changerはどれだ?～」のタイトルで、次世代のがん医療について議論を深め、わが国からの新たながん医療開発を活性化していくことを期待し、最新の知見の紹介と様々なディスカッションが行われました。



### ベンチャー企業と連携したイノベーション創出のさらなる加速

手術支援ロボットを開発する国立がん研究センター発ベンチャー企業が大手企業に子会社化されるとともに、手術データを活用した開発基盤を構築する新たな国立がん研究センター発ベンチャー企業が生まれるなど、イノベーション創出の基盤としての役割を今後も果たして参ります。



2020/12/28-2021/1/8 北海道大学 国産手術支援ロボットの検証実験

### 1年間の活動成果と今後

NEXTは、2017年の開設以降、最先端の医療技術の提供、次世代医療機器や技術の開発、がん医療におけるリーダーの育成等に取り組んで参りました。2021年度も、新たなテクノロジーを取り入れた診断・治療に加え、AI・デジタルヘルス領域の開発がさらに活発化し、複数のプロジェクトや製品化事例が生まれました。引き続き、治療効果や安全性の向上、生活の質や機能の改善、診療の効率化をもたらすよう、世界を変える医療機器を臨床現場に届けていきます。

## 寄付収支報告

収入	(円)
入金年度	入金額
前年度繰越	49,430,782
2021年度	46,169,000
合計	

次年度繰越	83,399,718
-------	------------



支出		(円)
使途	費目	支出額
1.最先端の医療技術を提供	その他委託費、雑費	1,996,050
	データ通信料	154,440
	消耗器具備品費	27,280
		2,177,770
2.医療機器や技術の開発	医薬品費	497,607
	材料費、消耗品費	491,920
	雑費	105,000
	消耗器具備品費	33,000
		1,127,527
3.新医療を臨床現場に		0
		0
4.医療者の育成	医療消耗寄付備品費	3,726,197
	消耗器具備品費	274,450
	雑費	198,940
	その他器機賃借料、賃借料	73,700
	消耗品費	51,480
		4,324,767
その他	負債振替	4,570,000
		4,570,000
2021年度支出合計		12,200,064

# 1.最先端の医療技術を提供

## 1 mm以下の血管・リンパ管吻合

形成外科 近藤 暁

当院ではがん切除後の再建や合併症として起こるリンパ浮腫の治療として、1 mm以下の極めて細い血管やリンパ管の吻合を行なっています。高い技術力と安全性を持ってこれらの治療を提供するためには顕微鏡、人工血管、微小な針糸など、特別な器具を用いて術前にシュミレーション、トレーニングを行うことが欠かせません。ご寄付によりこれらが可能な環境が整っております。今後も最先端の医療技術を提供できるよう努めて参ります。



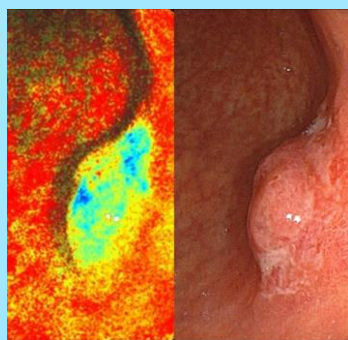
# 2.医療機器や技術の開発

## 新たな消化器がんの診断技術にむけて

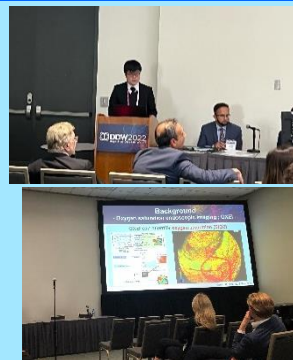
消化管内視鏡科 南方 信久

当院では、医療機器の開発を中心としたさまざまな研究を行い、迅速に新たな医療機器を臨床現場に届ける取り組みを行っています。昨年度は、消化管組織の酸素飽和度をリアルタイムに視覚化できる新しい内視鏡装置である酸素飽和度イメージングについて、海外学会で発表するための費用に寄付金を活用させていただきました。

今後、新たな診断技術の実用化に向けて努力していく所存です。皆様のご支援に感謝申し上げます。



酸素飽和度イメージング



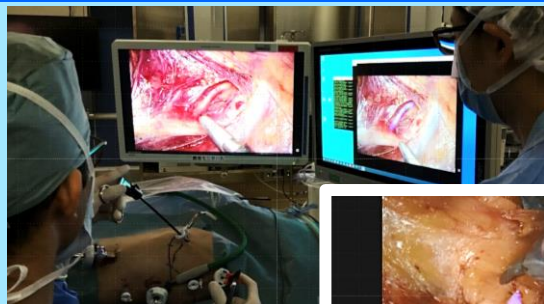
海外学会発表

# 3.新医療を臨床現場に

## 最新のロボット手術に人工知能を融合する

食道外科 藤田 武郎

「人工知能を実際の手術と融合して行う」これは少し未来の夢物語ではもうありません。当科ではより安全で正確な手術開発の一環として、低侵襲の内視鏡手術に人工知能を搭載したナビゲーション手術の実施を進めています。更には、最先端のロボット手術にこれらの技術を融合する事も可能になってきています。国内外の様々なアカデミアと協同し、皆様にいち早くお届けできるようにプロジェクトを進めています。



食道がんのAIナビゲーション手術の実際（上）  
ロボットとAIナビゲーションの融合手術（右）



# 4.医療者の育成

## 患者さんの安全のため、手技の向上に努める

消化管内視鏡科 三井 智広

当院では、NEXT棟で様々なトレーニングモデルを使用し、手技の習得・向上に努めています。執刀医の技術向上は、患者さんの安全につながります。消化管内視鏡科では、内視鏡を用いて早期癌の切除を行っていますが、繊細な技術を要する難しい手技となります。そこで、皆様のご支援のもと、当科も開発に携わったトレーニングモデルを購入させていただき、日々スキルアップするために精進しております。

